

2019年 梅雨のまとめ

令和元年9月2日 新潟地方气象台

1 梅雨入り・明けの時期

事後検討（注1）による2019年の梅雨入り・明けの時期（注2）は表1のとおりである。

表1 今年の梅雨入り・明けの時期

地域名	梅雨入り		梅雨明け	
	今年	(平年)	今年	(平年)
沖縄	5月16日ごろ	(5月9日ごろ)	7月10日ごろ	(6月23日ごろ)
奄美	5月14日ごろ	(5月11日ごろ)	7月13日ごろ	(6月29日ごろ)
九州南部	5月31日ごろ	(5月31日ごろ)	7月24日ごろ	(7月14日ごろ)
九州北部	6月26日ごろ	(6月5日ごろ)	7月25日ごろ	(7月19日ごろ)
四国	6月26日ごろ	(6月5日ごろ)	7月25日ごろ	(7月18日ごろ)
中国	6月26日ごろ	(6月7日ごろ)	7月25日ごろ	(7月21日ごろ)
近畿	6月27日ごろ	(6月7日ごろ)	7月24日ごろ	(7月21日ごろ)
東海	6月7日ごろ	(6月8日ごろ)	7月24日ごろ	(7月21日ごろ)
関東甲信	6月7日ごろ	(6月8日ごろ)	7月24日ごろ	(7月21日ごろ)
北陸	6月7日ごろ	(6月12日ごろ)	7月24日ごろ	(7月24日ごろ)
東北南部	6月7日ごろ	(6月12日ごろ)	7月25日ごろ	(7月25日ごろ)
東北北部	6月15日ごろ	(6月14日ごろ)	7月31日ごろ	(7月28日ごろ)

事後検討の結果、北陸地方の梅雨入りの時期は、当初発表日と同じく「6月7日ごろ」に、北陸地方の梅雨明けの時期も、当初発表日どおり「7月24日ごろ」に確定した。

北陸地方（新潟県・富山県・石川県・福井県）の今年の梅雨入りの時期（6月7日ごろ）は、平年より「早い」の階級（「早い」の範囲は6月3日～7日）となり、昨年（6月9日ごろ）よりも2日早かった。また、梅雨明けの時期（7月24日ごろ）は「平年並」の階級（「平年並」の範囲は7月19日～7月27日まで）となり、昨年（7月9日ごろ）よりも15日遅かった。

梅雨入りについては、6月7日から前線が北上し北陸各県で悪天日（日照時間が5時間未満の日）が継続した。梅雨入り後は好天日（日照時間が5時間以上の日）も現れたものの、上空の寒気や湿った空気などの影響で曇りや雨で悪天日が多く、事後検討により梅雨入りを6月7日ごろに確定した。

梅雨明けについては、7月の上旬から中旬にかけて上空の寒気や活動の活発な前線の影響で大雨となった所もあったが、前線は次第に北上し不明瞭となり7月24日以降は高気圧に覆われて晴れの日が多くなったことから、事後検討により梅雨明けを7月24日ごろに確定した。

注1：梅雨入り・明けの時期は、過去の実況と数日から1週間程度の天候予想に基づいて、「梅雨の時期に関する北陸地方気象情報」として速報的に発表（当初発表）する。後日、天候の経過を考慮して再検討したうえで確定する（事後検討）。記録として残るのは、この事後検討の値である。

注2：梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間がある。その遷移期間の概ね中日をもって「* * 日ごろ」と表現する。

2 北陸地方の梅雨の時期（6月～7月）の降水量

北陸地方の梅雨の時期（6月～7月）の降水量平年比は89%で、「平年並」の階級となった（「平年並」の範囲は85～117%）。なお、1946年以降で6月～7月の降水量が最も少ない年は1994年（平年比36%）で、最も多い年は1964年（平年比175%）である。

各地の梅雨の時期（6月～7月）の降水量は表2のとおりである。6月の階級は、全地点で「多い」階級となり、北陸地方平均としても「多い」階級となった。一方、7月の階級は、新潟、高田、輪島で「かなり少ない」、相川、富山、伏木は「少ない」、金沢、福井、敦賀で「平年並」となり、北陸地方平均としては「少ない」の階級となった。

同時期の最大日降水量、最大1時間降水量、最大10分間降水量は表3のとおりである。

表2 梅雨の時期の降水量

地点	6月		7月		6～7月合計		
	降水量 (mm)	平年比(%)	降水量 (mm)	平年比(%)	降水量 (mm)	平年値 (mm)	平年比(%)
新潟	174.5	136	73.5	38	248.0	320.0	78
相川	196.5	153	69.0	40	265.5	300.8	88
高田	224.5	155	60.5	29	285.0	355.9	80
富山	206.0	113	144.0	60	350.0	423.0	83
伏木	252.5	150	75.0	32	327.5	401.5	82
金沢	246.0	133	126.5	55	372.5	417.0	89
輪島	278.0	170	29.0	14	307.0	365.2	84
福井	221.0	133	195.5	84	416.5	399.9	104
敦賀	224.5	135	181.5	93	406.0	361.5	112

表3 梅雨の時期の最大日降水量、最大1時間降水量、最大10分間降水量

地点	最大日降水量 (mm) (月日)		最大1時間降水量 (mm) (月日)		最大10分間降水量 (mm) (月日)	
	新潟	55.5	6月30日	12.5	6月29日	8.5
相川	51.5	6月30日	10.5	6月29,30日	8.0	6月5日
高田	83.0	6月28日	20.5	6月28日	5.0	6月28日
富山	49.5	7月27日	21.0	7月27日	5.0	6月28日
伏木	41.5	6月30日	20.0	6月28日	9.0	6月11日
金沢	52.5	6月28日	31.5	6月28日	9.0	6月21日
輪島	92.0	6月30日	30.0	6月30日	9.5	6月30日
福井	78.0	7月18日	39.0	7月18日	12.5	7月18日
敦賀	72.5	7月27日	30.0	6月15日	9.0	6月16日

(注) 値の横に)や]がある場合には、使用したデータに欠測等が含まれていることを示す。

)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計日数(統計に用いた品質が十分な日数)を气象台等に確認して、品質を確かめてください。

3 梅雨の特徴

令和元年の梅雨入り・明けの階級は以下のとおりである。

≪梅雨入り≫

- ・かなり早い：なし
- ・早　　い：北陸、東北南部
- ・平　年　並：東北北部、関東甲信、東海、九州南部
- ・遅　　い：沖縄、奄美
- ・かなり遅い：近畿、中国、四国、九州北部（4地方ともに最遅を更新）

≪梅雨明け≫

- ・かなり早い：なし
- ・早　　い：なし
- ・平　年　並：東北北部、東北南部、北陸
- ・遅い　　：関東甲信、東海、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部
- ・かなり遅い：沖縄、奄美（沖縄は最遅を更新）

梅雨入りは西日本で「かなり遅い」地方が多く、東日本では、「平年並」が多かった。一方、梅雨明けは「遅い」地方が多く、次いで「平年並」地方が多かった。

4 北陸地方の梅雨の経過

(1) 6月の経過

上旬は、期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、期間の後半は低気圧や前線の影響により曇りや雨の日が多くなった。中旬は、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や湿った空気の影響により雨の日が多くなった。下旬は、期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日もあったが、期間の後半は梅雨前線の影響により雨の日が多く、北陸付近に停滞した梅雨前線の活動が活発となり大雨となった所もあった。

6月の平均（合計）と旬別の平均気温・降水量・日照時間の平年差（比）と階級

北陸地方平均	6月	上旬	中旬	下旬
平均気温平年差	+0.5℃	+1.2℃	-0.5℃	+0.8℃
階級	高い	高い	平年並	高い
降水量平年差	142 %	189 %	123 %	140 %
階級	多い	多い	平年並	多い
日照時間平年差	113 %	102 %	126 %	114 %
階級	多い	平年並	多い	多い

※北陸地方平均とは、北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（9地点）ごとの平年差（比）を平均したものである。

◎北陸地方気象官署及び特別地域気象観測所（相川、高田、伏木、輪島、敦賀）における6月の主な月間気象要素の累年極値および順位（3位以内）更新一覧表

・月最大24時間降水量

月	順位	地点名	月最大 24 時間降水量 mm（西暦）	これまでの最大 mm （西暦）	統計開始
6	1＝	敦賀	119.0 (2019年6月16日)	119.0 (1969年6月29日)	1950年6月

注)＝タイ記録を示す

(2) 7月の経過

上旬から中旬は、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、上空の寒気や活動の活発な前線の影響で上旬の終わりと中旬の後半は大雨となった所もあった。下旬は、期間のはじめは前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなった。その後は、太平洋高気圧が張り出し晴れた日が多くなったが、下旬の後半は台風第6号や台風第6号から変わった熱帯低気圧の影響で雨が降り大雨となった所もあった。

7月の平均（合計）と旬別の平均気温・降水量・日照時間の平年差（比）と階級

北陸地方平均	7月	上旬	中旬	下旬
平均気温平年差	+0.6℃	+0.4℃	-0.6℃	+1.8℃
階級	平年並	平年並	平年並	高い
降水量平年差	49%	27%	51%	88%
階級	少ない	少ない	少ない	平年並
日照時間平年差	87%	105%	54%	96%
階級	平年並	平年並	少ない	平年並

※北陸地方平均とは、北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（9地点）ごとの平年差（比）を平均したものである。

◎北陸地方気象官署及び特別地域気象観測所（相川、高田、伏木、輪島、敦賀）における7月の主な月間気象要素の累年極値および順位（3位以内）更新一覧表

・累年極値および順位(3位以内)の更新はなかった。